

協業組合 仙台清掃公社

所在地 ●宮城県仙台市宮城野区日の出町1-7-15
 TEL/FAX ●022-284-6661/022-284-7625
 業種 ●廃棄物処理・清掃業
 mcAccessシステム導入 ●平成8年
 加入局数 ●アナログ79局



本社のほか、4事業所、1出張所がある。

北海道から群馬まで、ごみ運搬車がひた走る—— 通話エリアがワイドになったmcAccess eは大きな魅力です。



総務部総務課課長 高橋敬子さん

ステップⅠ 基本は“必ずつながる”安心感

「仙台」と冠がついていることから、百万人都市・仙台市の生活ごみを扱っているように思われがちですが、委託されている家庭系ごみの対象地域は仙台市5区のうち若林区のみ。仙台清掃公社さんの幅広い事業のなかで、ごく一部にすぎませんが、この若林区での収集・運搬がmcAccess導入のきっかけになったそうです。

「以前はほかの無線を使っていたのですが、この若林区の一角が地形の関係でどうしても従来の無線では入ら

ないところがありました。ごみの取り残しがないようにと無線は日常的に使用していますから、通じないのはやはり問題です。それでmcAccessに変えてみたら、クリアに通じたんですね。それと、それまで一斉通話だけでは困るケースがあったのですが、mcAccessなら個別通話との切り替えができて、よかったです。と思いました」—総務部総務課の高橋敬子課長が当時を振り返って、こう語っています。

ステップⅡ 効率的、効果的な業務のために

事業のなかで家庭系ごみよりも規模が大きいのが、産業廃棄物いわゆる産廃の収集・運搬・処理です。

環境問題は現代社会におけるテーマのひとつで、企業でも汚染や省エネ、ごみに関して責任を持つとする動きが



RPF製造工場

活発です。ただし、ごみに関しては企業内で処理するには限界があり、許可された中間処理業者が代わりにそのごみを引き受ける役割を担っています。仙台清掃公社さんは、その代表格です。

産廃は、おもに企業の工場などから出されたごみを収集しますが、このときに活躍するのがmcAccessで、新規依頼・変更の指示、収集車の応援要請、搬入時間、業務連絡など、さまざまなシーン



搬入時の産廃も…



このように変身。リサイクルされた原料は製紙工場などへ買い上げられている。



最新の収集車のデザインは、宇宙的な広がりを見せているとか。まんやかに仙台のSが組み込まれている。



日常業務にすっかりとけこんでいるmcAccess。



現在は事業所単位でのやりとりだが、今後デジタル方式になればネットワークを結び、仙台清掃公社さんにとって最適な連絡網の構築も可能。



一般廃棄物事業部リサイクル推進事業所課長 菊池高志さん

で使われています。

そうして収集したごみは、ただ処分するのではなく、可能な限りリサイクルされます。例えば、包装材などでおなじみの発泡スチロールは溶融個化、プラスチックは高炉の原料として、それぞれ再利用されます。とくに、プラスチック類については、高炉原料化するためのリサイクル施設「RPF製造工場」があり、その規模は東北一。年間約7,000トンの産廃プラが処理され、約6,500トンが燃料として出荷されていきます。

ステップⅢ もっと広く、便利に、進化する

「仙台」と冠はついているものの、仙台清掃公社さんの活動範囲（許可）は、

日本列島を半分縦断するほどの広いエリア。一般廃棄物の収集・運搬は、宮城一円のほか、山形、岩手、福島といった東北6県など。中間処理では埼玉、神奈川へ行き、その帰り便で群馬へ寄り引き上げもしてきます。

これだと、現在お使いいただいているアナログでは、通じない部分もあるはずですが……その辺のご事情を一般廃棄物事業部リサイクル推進事業部の菊池高志課長に訊いてみました。

「そうなんです。mcAccessはサービスエリアごとで、越境するとダメですね。それで遠征便には携帯も持たせて、これで連絡を取っているのが現状です。ただし、運転中に会話ができないなど、無線とはやはり違います。今度デジタルのmcAccess eができて、日本全国どこでもつながると聞いて、たいへん興味を持っています。更新時期も近いので、前向きに検討しようと考えています」。

ますます便利に進化したmcAccess e。経済面でも有効で、すでに導入された皆様から好評をいただいていますので、ぜひご活用ください。

取材小話

産廃の収集車に密着同行

「おはようございます。これから業務を開始します」といざ出発。前日までに依頼のあった企業へ訪問回収中に、mcAccessで呼び出しが…。「A製造会社のB工場へ行けますか?」。その日に急な依頼が入ることもあり、なるべく対応できるようにとつとめているという同社。走行場所や積載量を考え、社内(基地局)からもっともふさわしいX車(移動局)に指示が出されました。しかし、X車は予定より多くのごみを積んでいたため、一斉通話を利用し、他の収集車に応援要請を出します。すると近くを走行していたY車が「これから向かう」と応答。ただ、そこを回ると清掃工場の締め切り時間にはギリギリになるため、本社へ「搬入が遅れそう。工場へ連絡頼めませんか」と依頼しました。直後、本社から「清掃工場から了解をいただきました」とOKの返事。慌ただしくも、無事搬入が終わり「業務終了しました」と業務連絡して、ホッとひと息。一日、お疲れさまでした。



会社案内／協業組合 仙台清掃公社

昭和44年、廃棄物収集等を目的として開業。当初は仙台市を主体としていましたが、現在は広く宮城県や近隣の廃棄物の収集、運搬を行うほか、市町村からの委託業務、し尿の収集・運搬、清掃業務も行い、中間処理の運搬では関東、北海道にまで及んでいます。「クリーンな環境をめざして」をコンセプトに掲げ、生活環境の保全と公衆衛生の向上、そして産業発展との豊かな共存を願い、長年の実績と最先端の技術をもって、研究開発、リサイクル化の推進など、環境問題に取り組んでいます。